

「きもの」の素晴らしさを
◎「十日町きもの」の伝統を守り進化を支える若い力

若い人が気軽に着られる、
着たくなるきものを
デザインしたい。

今は伝統工芸士をはじめとする
先輩方から、織物製造の基礎を学
んでいる段階です。十日町明石
ぢみは、糸から製品になるまでに、
約30工程、半年くらいかかります。
一つ一つの工程に意味があり、難し
さがあり、その丹念な手仕事の積
み重ねが、独特のシャリ感やきれ
いな柄につながっていくんです。ま
だはじめたばかりですが、ま
ます着物が好きになりました。き
もを作ってみたいという単純な憧
れから入ったの世界ですが、それ
ぞれの工程を体におぼえさせてい
きながら、同時にデザインや企画の
勉強をして、伝統を踏まえながら

若い世代に
伝えたい。

も時代の新しいものを取り入れ、
将来は若い人が気軽に着られるき
ものをデザインしてみたいと思っ
ています。(石田さん)

母から受け継いだ
「きもの」という文化を
大切にしていきたい。

母親が十日町に生まれ育った人
で、また和裁師でもあったので、家
にたくさんきものがありました。子
どもの頃から展示会に連れて
行ってくれたり、機会あるごとにき

ものを着させてくれたり。踊りや
お茶を習っていたこともあって、も
のこついた時から「きもの」に抵
抗がありませんでした。「和」こそ
プロジェクトには3年ほど所属し
ていました。若い人たちにきもの
を着てもらい、きものよさを知つて
もらおうと、若い人向けのお茶会
や着付け教室などを開催しました。
近々ボランティア留学でアメリカ
に行くのですが、十日町のきもの
を通じて、日本の文化を伝えられ
たらと思っています。(柳さん)

◎Youthful energy is protecting tradition and
supporting the evolution of "Tokamachi kimono".

Aiming to convey the wonders of
"kimono" to a younger generation.

Ms. Mizuki Ishida works at Yoshizawa Orimono,
Ltd. and is currently learning the basics of textile
manufacture from senior figures at the company. "I
want to build up my knowledge of traditional crafts
and at the same time study design and planning, before
going on to work as a designer and trying to design
kimono that young people will be happy to wear,"
Ms. Ishida explains.

Ms. Chihoko Yanagi learned about traditional dances
and tea from a young age and has always had an
affection for kimono. She was formerly a member of
the "Japanese Heart Project" kimono circle, which held
tea parties, kimono-wearing classes and so on for
young people, "encouraging young people to wear and
appreciate kimono."

◎保持「十日町和服」の伝統、年轻活力支持着不
断进化。

希望告诉年轻一代「和服」的魅力。

任职于吉泽织物株式会社的石田弥月(Mizuki
Ishida)。现在正从公司的前辈那里学习纺织制造的
基础知识。她怀有一个憧憬。那就是“在掌握传统
技术的同向学习设计和企划内容。将来成为设计师，
为年轻人设计能轻松愉快穿着的和服”。

柳千穂子(Chihoko Yanagi)从孩提时代就学习
舞蹈和茶道。所以平时就非常喜欢“和服”。以前从
属于和服活动“和心项目”。为了“让年轻人穿上
和服。知道和服的好处”。该组织经常面向年轻人
举办茶会和穿着教室等活动。

十日町明石ぢみ

19世紀のはじめ、伝統的な越後縮(麻
織物)の技法を絹に応用して創織された
透綾織(すきやおり)を源流としています。
緯糸(よこいと)に強染(きょうねん)を加
え、湯もみをして独特の「しほ」をつくり

出します。清涼感
あふれる薄くて
シャリツとした地
風と濡れても縮み
にくいことが最大
の特徴で、夏織物
の定番として今も
全国で愛され続
けています。



きもの産業の振興

生活様式の変化などに対応するため、
十日町織物工業協同組合をはじめ織物
業界や関係団体と連携しながら、消費者
がきものや和装を身近に感じられるよう
な環境づくりを進めるとともに、新しいビ
ジネス展開を支援しています。また、各
種きもの普及事業やきものフェスタ、き
ものサミットin十日町などの開催を支援
するなど、十日町のきものを全国にア
ピールしています。



1.きもの作る人と着る人、きもの
が好きだという共通点がある
せいか、はじめて会ったのにも
関わらず、すぐに打ち解けていま
した。2.「目色揃込み」緯糸を巻
いた木べでであらかじめ印の付
いた箇所を慎重に染めていきま
す。3.極細の糸にするため、明
石ぢみでは1メートルあたり約
4,000回転もの捻りをかけてい
ます。4.日本の文化を知って
もらうため、海外に行く際にもき
ものを手放さない柳さん。

きもの愛好者・柳千穂子(ちほこ)さん(写真左)

吉澤織物・石田弥月(みづき)さん(写真右)

profile

元「和ごころプロジェクト」所属。十日町市住吉町在住。子ども
の頃から踊りやお茶を習っていて普段から「きもの」を親し
んできました。撮影の時も白地に手描き模様の図柄が鮮やか
なきもの姿で登場。特別なことがない日でもきものに袖を
通すことがあるそうです。

吉澤織物株式会社勤務。上越市出身。母親がきものが好
きて、一緒に行ったきもの展示会できもの素晴らしさ、
美しさに魅せられたとのこと。高校卒業と同時に、単身十日
町に。まだ2年目で、きものづくりの工程を一つ一つ体
えさせている修行の段階とのこと。